

2021. 7. 27 <計2枚>

京都大学記者クラブ加盟社 各位

立命館大学広報課

**キャンパスで発生する野菜くずを堆肥化して「ゴミ減量」「廃棄物有効活用」に貢献
学生団体Uni-Comと総務部衣笠キャンパス地域連携課職員が
「コンポストのプロ」鴨志田 純 氏に理想の堆肥づくりを学びます**

日 時：2021年7月31日（土） 10時～12時

場 所：衣笠キャンパス 至徳館西側

立命館大学の各キャンパスでは、学生を中心に、SDGs に関するさまざまな取り組みが行われています(※)。そのうち、衣笠キャンパスでは、絶滅が危惧されているフジバカマの栽培と保全、キャンパス内の落ち葉の腐葉土化、などの活動に取り組んでいます。

同キャンパスの学生食堂では、コロナ禍で営業規模が縮小される中にあっても、直近 10 ヶ月で約 1,300kg の野菜くずが発生しています。野菜くずは、上手に発酵させれば良好な堆肥になることから、今回、循環型経済の実現を目指して活動する学生団体 Uni-Com とともに、この野菜くずをごみとして捨てずに堆肥として有効活用し、成功体験を他のキャンパスにも広げていくという、新たな取り組みを始めることにしました。

活動開始にあたって、国内屈指のコンポスト・アドバイザーである、東京都三鷹市の鴨志田農園園主・鴨志田純氏を招き、もみ殻、米ぬか、落ち葉、壁土を使用した床材（投入した野菜くずを発酵させる床材）づくりを学びます。衣笠キャンパス、そして学生団体 Uni-Com の新たな挑戦を、ぜひご取材ください。

※立命館学園の SDGsに関する取り組み(<http://www.ritsumeai.ac.jp/sdgs/>)

記

日 時： 2021年7月31日（土） 10：00～12：00

場 所： 衣笠キャンパス 至徳館西側

講 師： 鴨志田 純 氏（鴨志田農園園主）

参加者： 立命館大学学生団体 Uni-Com、総務部衣笠キャンパス地域連携課職員ほか

内 容： もみ殻、米ぬか、落ち葉、壁土を使用した床材づくりの実習

以上

●ご取材・内容についてのお問い合わせ先

立命館大学広報課 担当：桜井

TEL. 075-813-8300 FAX:075-813-8147

<http://www.ritsumeai.ac.jp/>

別紙

鴨志田 純 氏について

鴨志田農園(東京都三鷹市)園主、コンポスト・アドバイザー。ネパールのカトマンズ州ティミ市を中心に、生ごみ堆肥化と有機農業の仕組みづくりを行う。地域の未利用資源を利用して、病原菌や雑草の種子が含まれてない自家製完熟堆肥をつくり、料理に合わせた野菜の味をデザインする。一般財団法人つちのと理事。熊本県南小国町の温泉地「黒川温泉」コンポスト事業アドバイザー。

立命館大学学生団体「Uni-Com」について

設立 : 2020年7月

メンバー数 : 4人

代表学生 : 隅田 雪乃(生命科学部4回生)

カンボジアでのボランティア活動、フードバンクでのインターン活動、飲食店でのアルバイトなど、それぞれの経験を通じて、環境問題や食物残渣の処理方法に問題意識を持つメンバーが集まり創設。廃棄物を出さずに資源として循環させるサーキュラーエコノミー(循環型経済)の実現を目指す。団体名は「University から Compost を広げよう」より。

大学の食堂から出る生ごみなどの有機廃棄物を堆肥化させ、できあがった有機肥料を地域に還元するという、産学連携プロジェクトの実現に向けて、いよいよ堆肥化作業に着手する。

朝日新聞社主催「大学SDGs ACTION! AWARDS 2021」準グランプリ(“Uni-Comプロジェクト～地域単位で食品ロス資源として循環させよう～”)。

衣笠キャンパスのごみ減量、廃棄物有効活用に向けた取り組みについて

総務部衣笠キャンパス地域連携課では、キャンパス内の落ち葉を集めて腐葉土に変え、キャンパスの植栽や、京北地域での野菜作りに役立てる活動を行っている。

この腐葉土は、立命館大学農業園芸サークル「きぬがさ農園 Kreis(クライス)」のメンバーや教職員、地域住民によって運営される「きぬがさ農園」(京都衣笠体育館南西)にも活用されている。昨年度は約1万3,000リットル分もの落ち葉を腐葉土に変え、きぬがさ農園に還元。腐葉土を使って無農薬で育った栄養満点の野菜は、立命館生協の学生食堂で提供する期間限定メニューにも採用され、コロナ禍で落ち込む生協の売上にも貢献した(約2,100食の売上)。